

地震を知る

内陸型地震と海溝型地震の特徴

地震は、震源によって大きく**内陸型地震**と**海溝型地震**にわかれます。

内陸型地震

発生場所: 陸地の浅い場所(数km~20km程度)にある断層がずれることで発生

特徴: 揺れの範囲は比較的狭いが、震源地周辺の被害が大きい

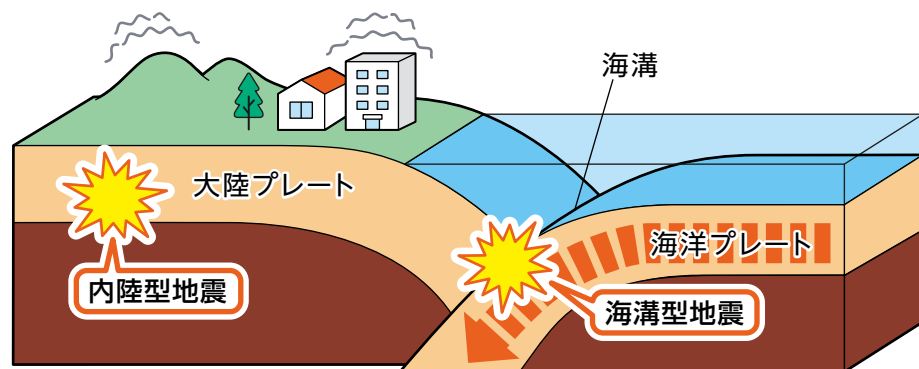
例: 阪神・淡路大震災(1995年)、熊本地震(2016年)

海溝型地震

発生場所: 海底でぶつかり合ったプレート同士の境界がずれることで発生

特徴: 広い地域で揺れを感じるほか、津波が発生することがある

例: 関東大震災(1923年)、東日本大震災(2011年)



山梨県で発生した過去の地震

関東地震(関東大震災) 1923(大正12)年9月1日

県内死者20人、負傷者116人、家屋全壊1761棟、半壊4992棟、地盤の液状化3箇所など。

東南海地震 1944(昭和19)年12月7日

甲府市付近で負傷者2人、家屋全壊26棟、半壊8棟など。

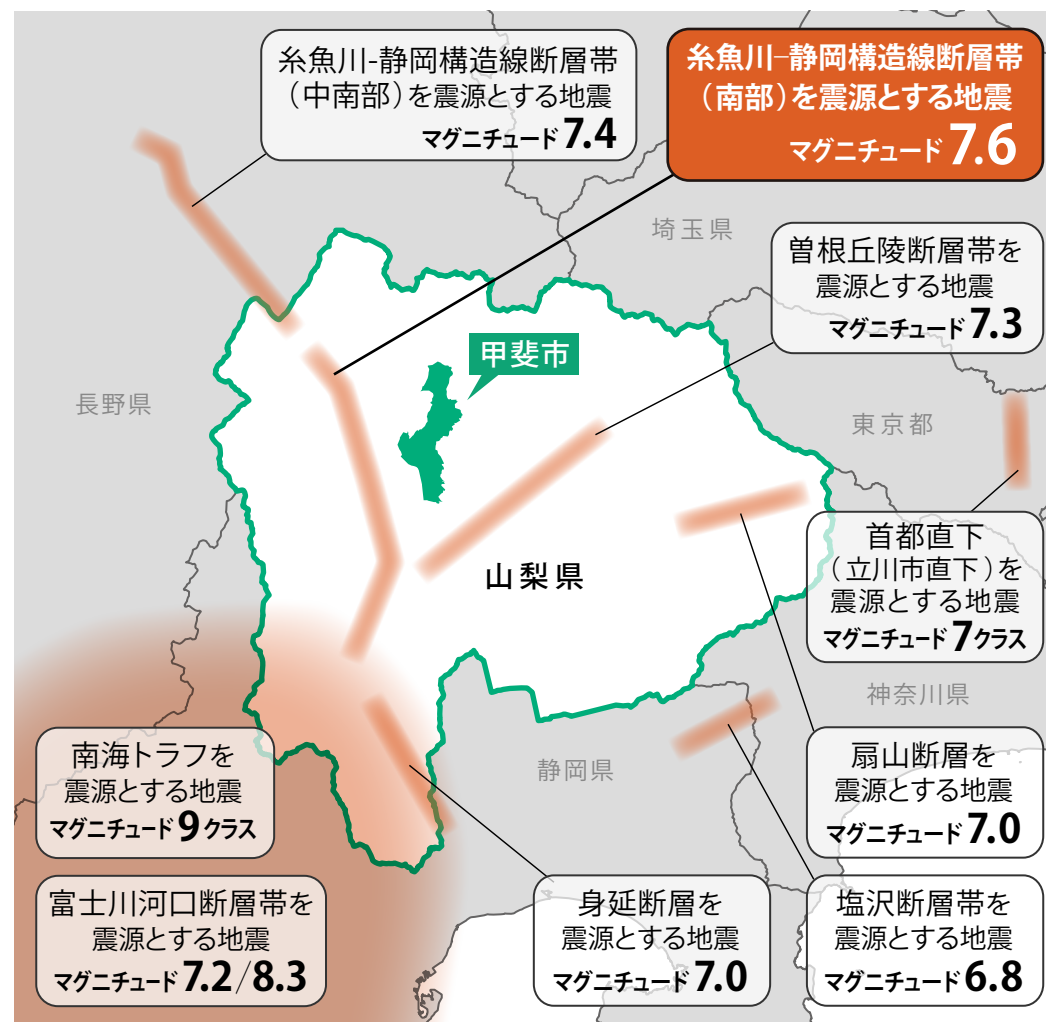


※山梨県地域防災計画より

山梨県が想定した主な地震

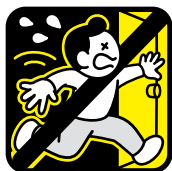
山梨県が想定した地震のなかでも、甲斐市に被害を及ぼす地震としては「**山梨県内及び県境に存在する活断層による地震**」「**南海トラフの巨大地震(東側ケース)**」「**首都直下地震(立川市直下)**」が想定されます。

これらの地震のなかで、「**糸魚川-静岡構造線断層帯(南部)**」を震源とする地震が甲斐市に最も大きな影響を及ぼすと考えられます。



大きな揺れを感じたり、緊急地震速報が発表された場合

あわてずに、まず身の安全を確保する



屋内

落下物に当たる危険があるので、屋外に飛び出さない



屋外

看板や割れたガラスの落下に注意し、鞆などで頭を守る



屋内

無理にコンロの火を消そうとしない



屋外

ブロック塀、自動販売機などから離れる



公共施設

人が多い場所では出口に殺到せず、集団パニックに注意する



エレベーター

すべての階数ボタンを押して、止まった階で降りる



自動車

ハザードランプを点滅させて徐行し、道路の左側に停車する



鉄道・バス

つり革、手すりなどにしっかりつかまり、係員の指示に従う



落ち着いて身の回りを確認し、二次災害を防ぐ

ただし、危険が迫っている場合は一刻も早く避難をする！

スリッパや靴を履く

ガラス破片などが足元に散乱している場合がある



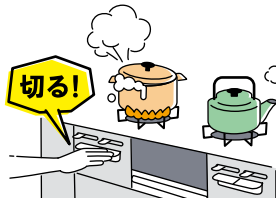
出口を確保

部屋の窓や玄関のドアを開ける



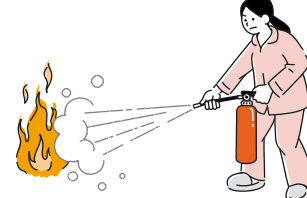
火の元を確認

調理器具や暖房器具のスイッチを切り、ガスや灯油漏れを確認する



落ち着いて初期消火

出火した場合は速やかに消火し、危険を感じたら無理せず避難する



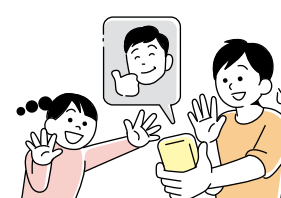
正しい情報入手

テレビ、ラジオなどで正しい情報を確認する



家族の安全を確認

離れている場合は災害用伝言板やSNSなどで安否を確認する



近所に住む人たちの安否を確認

お互いに声をかけ合い安否を確認し、必要であれば高齢者や体の不自由な人たちを安全な場所へ誘導する



周りの人たちと協力して救護・初期消火

けが人の救護や消火活動は近隣住民や自主防災組織など、地域で協力で行う



防ごう！通電火災

「通電火災」は、地震の影響で配線が損傷するなどの状態のまま通電することで発生します

- ① 避難時には、ブレーカーを落とす
- ② 通電前に電線や配線の損傷などを確認する
- ③ 通電前に電化製品のスイッチ(切)などを確認する

